

令和3年度事業計画

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告を行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は科学研究費補助金の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費としてその所属機関に措置される。

令和3年度の科学研究費補助金は、継続研究課題として8件が内定しており、新規研究課題として15件を現在申請中で、審査結果を待っている。

(1) 継続研究課題

基盤研究(A)補助金

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800千円(研究期間合計額)

基盤研究(B)補助金

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和3年度 雨森久晃 11,600千円(研究期間合計額)

基盤研究(C)基金

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究 髪型と装身具を中心に」

令和2年度～令和4年度 木沢直子 4,290千円(研究期間合計額)

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和5年度 三宅徹誠 2,470千円(研究期間合計額)

「天然素材から合成素材へ 現代歴史資料の保存に関する研究」

令和2年度～令和4年度 金山正子 3,640千円(研究期間合計額)

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和4年度 服部光真 2,470千円(研究期間合計額)

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和3年度 坂本 俊 3,770千円(研究期間合計額)

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和4年度 金澤 馨 4,030千円(研究期間合計額)

(2) 新規申請中課題(計15件)

基盤研究(A)一般	1件	基盤研究(B)一般	3件
基盤研究(C)一般	7件	若手研究	2件
挑戦的研究(萌芽)	2件		

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

南都十輪院（奈良市） 南都十輪院歴史資料調査および寺史編纂事業
総本山長谷寺（奈良県桜井市） 総本山長谷寺文化財等保存調査整理事業等

考古学担当

奈良県内を中心に、発掘調査並びに整理作業、調査報告書作製等を行う。
また、石造品調査も各地で予定している。

伝世資料担当

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市） 所蔵資料のコンディション調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を実施する予定である。

保存科学研究グループ

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

受託事業としては、過去に保存処理を実施した大型木製品の保存状態調査や、博物館の展示・収蔵環境調査を行う予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器担当

出土遺物について、遺物の種類、数量、状態を把握し、今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理等業務を行う予定である。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（11）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和3年度も令和2年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行おうとするものである。

調査・研究の成果については、『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

国宝・重要文化財を含む伝世品資料、古文書・絵図面等の紙資料の保存修復を実施する予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

重要文化財を中心とする出土木製品の保存修理を行なう予定である。

金属製品・土器担当

<金属製品>

国宝・重要文化財を中心に、実施する予定。

<土器>

国の指定文化財の修理としては、重要文化財の壺形土器や土面などの保存修理を継続して予定している。新たな事業として、土師器壺等の保存修理を複数年計画で予定している。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

秋季特別展

『ならまちの地蔵霊場 十輪院の歴史と信仰』（仮）

宗教法人元興寺と共催

開催期間 10月23日（土）～11月14日（日）

開催場所 元興寺法輪館

十輪院は、鎌倉時代の本堂（国宝）、地蔵石仏龕（重要文化財）などの文化財で知られる、ならまちの古刹である。奈良時代に元興寺別院として草創されたと伝えられたとの由緒を持ち、鎌倉時代には、矢田寺・東大寺知足院・福智院などと並ぶ奈良を代表する地蔵霊場のひとつとしてよく知られる存在であった。

当研究所では、十輪院所蔵文化財の総合調査を2015年から6年間にわたって実施した。この調査では、古文書、経典・聖教類、美術・工芸品、民俗資料、石造物など各分野の伝世品を対象とするもので、他に境内「魚養塚」の発掘調査も行った。これによりこれまで把握されていなかった様々な文化財が新たに確認され、十輪院の寺史や文化財について多くの知見を得ることができた。

本展では、この調査で見出された各種の資料を中心にゆかりの文化財を紹介し、「ならまち」とともに歩んできた十輪院の歴史、そしてその信仰の軌跡をたどる。会期中に記念講演会、現地見学会を予定している。

文化講座の開催

実践文化財学

講座編「保存科学から歴史を読む」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく報告する。

場 所 総合文化財センター ルーバ館3階
時 間 13:30～15:00

第1回	5月12日	「古代の金属器生産技術に迫る」	塚本敏夫
第2回	6月9日	「文化財の自然科学的観察」	山口繁生
第3回	7月7日	「民具研究と科学分析」	桃井宏和
第4回	9月8日	「記録としての写真」	大久保治
第5回	10月13日	「大型資料を後世に残すには - 大型民俗資料・美術工芸品の保存修復 - 」	雨森久晃
第6回	11月10日	「古代の組紐技法 - 解析と復元 - 」	小村眞理
第7回	12月8日	「絵図修復の世界」	金山正子

* 8月を除く5月から12月までの第2水曜日に開催

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業としては、昨年度に引き続き「発掘された日本列島2021」の展示支援事業と、大阪大谷大学による企画展示の展示支援事業を予定している。また、昨年度より各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行っており、三次元計測を積極的に利用した保存台の作製だけでなく、復元・複製品の作製も含め事業展開を図っていく予定である。その中には、宮内庁正倉院事務所より委託を受けて昨年度三次元計測を実施した正倉院宝物(笙)の保存台作製業務や能美市博物館(石川県能美市)の古墳出土甲冑の復元模造品製作業務を予定している。

『発掘された日本列島2021』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和3年度については令和2年度の5館から3館に開催館が減るものの継続して実施予定となり、総合評価落札方式による一般競争入札方式で実施する旨が告示された。この方式は技術・ノウハウ等の価格以外の要素と入札金額を総合的に評価して落札者を決定する方式である。現在入札のための技術提案書等の書類を提出し結果を待っている。

令和3年度は、「新発見考古速報展」、「わが町が誇る遺跡」、特集「記念物100年」の三部で構成される。令和3年度は全国で実施されている発掘調査の成果だけでなく、地域において長年蓄積された調査研究の成果を含めて、これらを一堂に会しながら全国を巡回させ、埋蔵文化財のみならず史跡等の文化財に関しても広くその意義と重要性を国民に広報することを目的としている。

「新発見考古速報展」では、近年発掘された遺跡で、発掘調査結果が全国的に注目された縄文時代から近世までの、計18遺跡の紹介が行われる予定である。

「わが町が誇る遺跡」では、個性豊かな遺跡が紡ぎだす「地域の歴史の魅力」を幅広く発信しようとするもので、地方公共団体が作成した企画に基づき、展示を行う。今回は3つの企画を取り上げ、それぞれの地域における遺跡の継続的な調査研究から見えてきた、地域の人々が歩んだ歴史やその特色について、出土遺物と写真パネルの展示により解説する約400点の資料が出陳される予定である。

特集では、日本で記念物を指定する制度（「史蹟名勝天然記念物保存法」大正8（1919）年に制定）ができて100年を迎えることを機会として令和元年度より行われている「記念物100年」事業の一環として、全国各地に所在する記念物をテーマに、次の100年に向けた取組について発信・PRする企画展示である。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる。

令和3年度の開催館予定館は下記の通り。

東京都江戸東京博物館（東京都墨田区）6月5日（土）～7月4日（日）30日間
苫小牧市美術博物館（北海道苫小牧市）7月31日（土）～9月12日（日）44日間
群馬県立歴史博物館（群馬県高崎市）10月9日（土）～11月21日（日）44日間

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行う。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人 荏原 畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2021』（1,300冊）の刊行

7. 体験活動

施設見学等

研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れる。

総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催する。

開催日は5月12日（水）、7月7日（水）、9月8日（水）、10月13日（水）、11月10日（水）、12月8日（水）、1月12日（水）の7回を予定している。

なお、団体見学については日程を調整しながら業務に支障の無い範囲で随時受け入れる。